

（一）第一に契約の義務を完全に果すこと、第二に農業に関する諸種の経験を積むこと、第三に公徳を重んじ且の此の地の習俗に染むこと、第四に伯刺西爾の事情に精通すること、第五に伯刺西爾語を學ぶことの五點は、是非共實行し修得せねばならぬ

併し忍ぶと云ひ屈する云ふも、  
決して自からを卑ぶして他に盲従す  
る云ふ意味ではない、諸君は諸君  
の目的を仕途ぐる爲めに必要な程  
度に、自己の自由を自制限すればよ  
いのである、殊に諸君は今や世界を  
諸君の發展區域として、此の伯刺西

# ○寄 著 荒井生

洲諸國は果して日本に 出兵を乞ふので  
あらうか。回顧すれば今より二十有餘年前即ち  
日清戦争後、極東の一小島國たる日本は世界より稍其存在を認めらるゝに到り、越へて三十三年の北清事件により更に其名聲を高め、各國とも然れども英國の見地よ  
れたるを憤慨し、而來攻撃の矢を放ち、剩へ人種の裏切者と呼び、日本に對しては熾にしたのである。

英國に向つて道の爲めなりといふのである、して  
英國は此の際斷然古き人種の偏見を擲て、人道の爲めに各協商團の間には何等の差別を附せず、各自  
も有効に活動するの自由を與へ、可成戦爭の終局を早からしむる事に力すべきである、されども人道とは  
黄禍説を唱道りすれば、日英國を以て白偏見を擲て、人道の爲めに各協商團の間には何等の差別を附せず、各自

は、矢張り君の様な下戸が乗つて居ない國方が安全だね」とは何處迄も上戸當を發揮した愛嬌振であつた▲其れでも航海上船の動いてゐる間は、一水も口にしない、傭兵の如きは眞の酒飲物だと大に敬服して居つた者があつた。

## 歐洲出兵問題の 來と戰爭の目的

荒井書

S. Paulo, 15 de Dicembre 1917.

Não conheço elemento mais efficaz  
de progresso de um povo do que a ima-  
gem de justiça que se inspira nos princí-  
pios de justiça e nos sentimentos de  
amor à terra em que viva.  
Congratulo-me, pois, muito cordial-  
mente com os Srs. Redactores do  
"Notícias do Brasil" por se afigurarem  
o apparecimento na terra grande  
ta que, sempre generosa, abre os  
braços a quantos a procuraram para  
nella exercerem sua actividade  
sestas e proletaria. O "Cal" o primei-  
ro jornal japonês que se impõe  
no Brasil seja o precursor do  
desenvolvimento das insigneis  
relações commerciais entre o Brasil  
e aías das zonas e dos cossantes  
anos a liberrima República  
Brasilina.

Amandio Rodriguez



サンパウロ州副統領  
ア・カンデド・ロドリゲス氏

Este jornal japonês que se impõe  
no Brasil seja o precursor do  
desenvolvimento das relações  
relacionais comerciais entre o Brasil  
e a Ásia e os países vizinhos. Peço  
que o leitor de "O Japão" nos  
dê sua opinião sobre o assunto.  
Alcântara Rodrigues

本の援助により同人種たる獨逸を打來獨り日本に對してのみならず他の國の外交は物質的利益のみを目的とする。此の見地よりして日本の出兵は英國の可成希望しない所であるといふ結論が來るのである。其れに最近米國の豫備を得てより益々此の信念を固めしめて其地方の安全を保たしむる巡査の役目は仰せ付くるかも知れぬが、直接戰爭の大局に關係せしめては却てありがたい次第である。いは、是は日本の財政其他の關係より如き重要な場所には可成出させない日本武士の外交たる豈獨り物質的益のみを目的せんやである。

泥せず日本に派出を乞ふに到り、其の間は即ち是迄我の間に長く存在して居つた人種的隔壁が全然除去せられたる吉日であつて、又彼の加州問題の如きは容易に解決せらるゝ事が接近し來りたる事を知らしむるのである。

因に人あり論を爲して曰く「協商が日本に向つて出兵を要求した所で、日本の軍隊は斯る目的の爲めに組織せられ居らざるを以て、決して出動せざるべし」と今や地球上の諸國はヤツキとなつて世界的大問題の解決に努力しつゝある際に、斯る「エゴエスト」の議論が結果して通るであらうか、又斯る我利的の主張が世界の一員たる日本國の將來に好き結果を來すであらうか、聊か余の考ふる處を述べて識者の教へを乞はんと欲する所以御提出たふの祝意を表すべし。

若狭丸が舊暦二十八日の午後サントスに無事着港と云ふので、埠船長以下高級船員諸君の木で、薩摩丸が舊暦二十八日の午後

## 吾人の希望を述べて 移民諸君を迎へて

緊要事である。併し兄弟言を以てする  
言へば、右五點は恰も赤子の歩き始  
めに、物に頼つて立つの練習をする  
が如く、諸君の他日獨立して事を爲  
すにも亦當然の順序として、右の五  
點を確實に守るの必要なるを忘れて

益々大にすべく努力種の融合渾實現すべくのである。

# 白雨時報

**NOTICIAS DO BRAZIL**  
 Publicado semanalmente  
 Rua Conselheiro Furtado  
 No. 89  
 S. Paulo, Brazil  
 Proprietario e editor  
 Seisaku Kuroishi

---

Assignaturas

por Anno	10\$000
„ Semestre	5\$800
„ Mez	1\$000
„ Semana	8\$00

間の問題にあらずして、痛く揣摩臆測を挑動したる世界的題目となつた、蓋し最近歐洲は世間一般が豫想せる所と云ふ大に轉變して實際日本の出兵が如きものあるからである。然れども日本は自ら進んで歐兵する事はなからうとは何人する所である、蓋し日本の國際關係とは未だ必らずしもユーローブリオ'に之を爲す程を認めないからである。然るの出動は歐洲諸國の要求に依

世界の其實力を認めざるを得ざ  
の一大所が獨佛露の三國、殊に  
の形勢に附帶して發生した  
戰争に附帶して發生した  
事件の關係上急に日本を  
を保つ  
る譯にも行かず、緩慢し  
英國は早く既に千九百一  
三十年中其傳說的孤獨  
洲に出  
も首肯  
破りて破天荒にも東洋に  
一度伯林の朝廷に達し  
程の必要耳に入るや彼の受けた  
うの影響も啻ならざ  
る。「モテ  
ば日本晴天の霹靂も啻ならざ  
ふるであ  
た、彼は極東に於ける

さるに至つた本と同盟したから接世界的問題に關するものがあつたる三国干涉もあらず、唯極東の事態を關係せんとする仲直りをする分的利益を保護したる迄で、一年即ち明治の説たる根據なきし來りたりに、今事件の解決に異人との交渉を試みるが如きは、英國は獨逸外交主義の一國と同盟する印象は沟に提供するものなるに、國殊に露國の如きは又必らず之を利用する同情を殺ぐ。」

さて日本をして直米人間の人道であつて、其他的國民關係せしめたる譯を除外し居るのであるか、若し果して然らば今次の戰争は英米の爲めに於ける英國の部であると同時に之を同時に之を除くと同時に之を同時に行ふべきである。あつて「カイゼル」暴論に過ぎずと爲す時英國が世界的大の當局は何にを苦んで協商側の爲めに艦隊するか、其理由が解らんといふ疑問の起るのは亦甚だ自然であるが、其れには他に深き外交上の意味があるのみならず、獨逸が含まれて居るに違ないが、吾人用して他の歐米諸の觀る所を以てすれば、今次の戰争は程英米人をして人種的偏見を放擲せしむるに向つて英國に對するに於ける英國の部である。

三人旅

L

# 三人旅

(九)

南鳩生

小高き岡の上には十字架が光を放つて立つて居た、聞く處によれば此處は主人の聖地で、伯人の教會よりも既に交渉があつて、伯國拓植會社に預かつたので、良い心持で熟睡したが、唯一つ遺憾であつたのは、氣候が少し涼し過ぎた爲めに不穢である。遂に蜥蜴の蒲焼が頂戴出来なかつたことである。

今日は日曜で、天氣で、たまけに柱植民地へ出立といふので、今一度レヂストロの市街區域丈も見て置かうと思つて、出掛けた矢先、若い女の白い、眼元の可愛らしい婦人が蹴合に敗けて足を傷めたといふ、鶴の雄を一羽抱えて來て、福井さんの奥さんに向つて、さも言ひ苦くさうに「此の雄鶴はいつがや貴女の方かが、如何したら宜しう御座いましよ」分けたて頂だいたのでありますか」と聞くのであつた、さうする今朝貴宅の雄鶴と蹴合して、足を傷めました、或は死ぐかも知れませんのですか、死ぎあしませんよ、鶴なんて仕方のないのですね、宅に雌うか」と聞くのであつた、さうするご福井さんの奥さんは「何に構ふも叫ばしめたのである。

鶴が澤山居るのに、貴宅の方へ出掛けて行つて、蹴合してまで他の雄鶴を盗むなんて、私の鶴が悪いのですよ」と返答した、之を聞いた僕と多羅間さんは、人間でさへ他人の細君を盗む奴があるもの、鶴にしては尙更ありさうなことだといつて大笑いした、後で聞けば其の若い婦人は馬場さんとの奥さんだといふことをあがつたといふ事だ。瓦葺板壁ベンキ塗構造はセメントで疊した土臺に、レヂストロ植民地から切出した材木で、八十家族も收容し得る、いと空氣の二階から市街地の方を瞰下すと、右方にはリベラ河が蜿蜒として流れ

小高き岡の上には十字架が光を放つて立つて居た、聞く處によれば此處は主人の聖地で、伯人の教會よりも既に交渉があつて、伯國拓植會社に預かつたので、良い心持で熟睡したが、唯一つ遺憾であつたのは、氣候が少し涼し過ぎた爲めに不穢である。遂に蜥蜴の蒲焼が頂戴出来なかつたことである。

今日は日曜で、天氣で、たまけに柱植民地へ出立といふので、今一度レヂストロの市街區域丈も見て置かうと思つて、出掛けた矢先、若い女の白い、眼元の可愛らしい婦人が蹴合に敗けて足を傷めたといふ、鶴の雄を一羽抱えて來て、福井さんの奥さんに向つて、さも言ひ苦くさうに「此の雄鶴はいつがや貴女の方かが、如何したら宜しう御座いましよ」分けたて頂だいたのでありますか」と聞くのであつた、さうする今朝貴宅の雄鶴と蹴合して、足を傷めました、或は死ぐかも知れませんのですか、死ぎあしませんよ、鶴なんて仕方のないのですね、宅に雌うか」と聞くのであつた、さうするご福井さんの奥さんは「何に構ふも叫ばしめたのである。

鶴が澤山居るのに、貴宅の方へ出掛けたて、蹴合してまで他の雄鶴を盗むなんて、私の鶴が悪いのですよ」と返答した、之を聞いた僕と多羅間さんは、人間でさへ他人の細君を盗む奴があるもの、鶴にしては尙更ありさうなことだといつて大笑いした、後で聞けば其の若い婦人は馬場さんとの奥さんだといふことをあがつたといふ事だ。瓦葺板壁ベンキ塗構造はセメントで疊した土臺に、レヂストロ植民地から切出した材木で、八十家族も收容し得る、いと空氣の二階から市街地の方を瞰下すと、右方にはリベラ河が蜿蜒として流れ

小高き岡の上には十字架が光を放つて立つて居た、聞く處によれば此處は主人の聖地で、伯人の教會よりも既に交渉があつて、伯國拓植會社に預かつたので、良い心持で熟睡したが、唯一つ遺憾であつたのは、氣候が少し涼し過ぎた爲めに不穢である。遂に蜥蜴の蒲焼が頂戴出来なかつたことである。

今日は日曜で、天氣で、たまけに柱植民地へ出立といふので、今一度レヂストロの市街區域丈も見て置かうと思つて、出掛けた矢先、若い女の白い、眼元の可愛らしい婦人が蹴合に敗けて足を傷めたといふ、鶴の雄を一羽抱えて來て、福井さんの奥さんに向つて、さも言ひ苦くさうに「此の雄鶴はいつがや貴女の方かが、如何したら宜しう御座いましよ」分けたて頂だいたのでありますか」と聞くのであつた、さうする今朝貴宅の雄鶴と蹴合して、足を傷めました、或は死ぐかも知れませんのですか、死ぎあしませんよ、鶴なんて仕方のないのですね、宅に雌うか」と聞くのであつた、さうするご福井さんの奥さんは「何に構ふも叫ばしめたのである。

鶴が澤山居るのに、貴宅の方へ出掛けたて、蹴合してまで他の雄鶴を盗むなんて、私の鶴が悪いのですよ」と返答した、之を聞いた僕と多羅間さんは、人間でさへ他人の細君を盗む奴があるもの、鶴にしては尙更ありさうなことだといつて大笑いした、後で聞けば其の若い婦人は馬場さんとの奥さんだといふことをあがつたといふ事だ。瓦葺板壁ベンキ塗構造はセメントで疊した土臺に、レヂストロ植民地から切出した材木で、八十家族も收容し得る、いと空氣の二階から市街地の方を瞰下すと、右方にはリベラ河が蜿蜒として流れ

小高き岡の上には十字架が光を放つて立つて居た、聞く處によれば此處は主人の聖地で、伯人の教會よりも既に交渉があつて、伯國拓植會社に預かつたので、良い心持で熟睡したが、唯一つ遺憾であつたのは、氣候が少し涼し過ぎた爲めに不穢である。遂に蜥蜴の蒲焼が頂戴出来なかつたことである。

今日は日曜で、天氣で、たまけに柱植民地へ出立といふので、今一度レヂストロの市街區域丈も見て置かうと思つて、出掛けた矢先、若い女の白い、眼元の可愛らしい婦人が蹴合に敗けて足を傷めたといふ、鶴の雄を一羽抱えて來て、福井さんの奥さんに向つて、さも言ひ苦くさうに「此の雄鶴はいつがや貴女の方かが、如何したら宜しう御座いましよ」分けたて頂だいたのでありますか」と聞くのであつた、さうする今朝貴宅の雄鶴と蹴合して、足を傷めました、或は死ぐかも知れませんのですか、死ぎあしませんよ、鶴なんて仕方のないのですね、宅に雌うか」と聞くのであつた、さうするご福井さんの奥さんは「何に構ふも叫ばしめたのである。

鶴が澤山居るのに、貴宅の方へ出掛けたて、蹴合してまで他の雄鶴を盗むなんて、私の鶴が悪いのですよ」と返答した、之を聞いた僕と多羅間さんは、人間でさへ他人の細君を盗む奴があるもの、鶴にしては尙更ありさうなことだといつて大笑いした、後で聞けば其の若い婦人は馬場さんとの奥さんだといふことをあがつたといふ事だ。瓦葺板壁ベンキ塗構造はセメントで疊した土臺に、レヂストロ植民地から切出した材木で、八十家族も收容し得る、いと空氣の二階から市街地の方を瞰下すと、右方にはリベラ河が蜿蜒として流れ

小高き岡の上には十字架が光を放つて立つて居た、聞く處によれば此處は主人の聖地で、伯人の教會よりも既に交渉があつて、伯國拓植會社に預かつたので、良い心持で熟睡したが、唯一つ遺憾であつたのは、氣候が少し涼し過ぎた爲めに不穢である。遂に蜥蜴の蒲焼が頂戴出来なかつたことである。

今日は日曜で、天氣で、たまけに柱植民地へ出立といふので、今一度レヂストロの市街區域丈も見て置かうと思つて、出掛けた矢先、若い女の白い、眼元の可愛らしい婦人が蹴合に敗けて足を傷めたといふ、鶴の雄を一羽抱えて來て、福井さんの奥さんに向つて、さも言ひ苦くさうに「此の雄鶴はいつがや貴女の方かが、如何したら宜しう御座いましよ」分けたて頂だいたのでありますか」と聞くのであつた、さうする今朝貴宅の雄鶴と蹴合して、足を傷めました、或は死ぐかも知れませんのですか、死ぎあしませんよ、鶴なんて仕方のないのですね、宅に雌うか」と聞くのであつた、さうするご福井さんの奥さんは「何に構ふも叫ばしめたのである。

鶴が澤山居るのに、貴宅の方へ出掛けたて、蹴合してまで他の雄鶴を盗むなんて、私の鶴が悪いのですよ」と返答した、之を聞いた僕と多羅間さんは、人間でさへ他人の細君を盗む奴があるもの、鶴にしては尙更ありさうなことだといつて大笑いした、後で聞けば其の若い婦人は馬場さんとの奥さんだといふことをあがつたといふ事だ。瓦葺板壁ベンキ塗構造はセメントで疊した土臺に、レヂストロ植民地から切出した材木で、八十家族も收容し得る、いと空氣の二階から市街地の方を瞰下すと、右方にはリベラ河が蜿蜒として流れ

心臓病、肺の病氣、肝臓病、癌マ  
ーク、痔疾、鴨寄生虫等である。専  
一般に身體の虛弱な人、便秘性の  
人に起り易いのであるから、斯うい  
人は特に注意する必要がある。

▲微候 此病氣に罹つても最初は  
大した感じが無いが漸々腹部に一種  
不快の感、重苦しい感じや、壓さ  
られる様な或は膨満様な感じを來し  
が放屁となって出る、時には病人は  
もなり、瓦斯が溜つて來るご腹の感  
時は下腹に輕い疼痛が來たりす。  
體が苦しいばかりでなく呼吸困難な  
事も來る。此病氣が永びく時は慢性胃  
病氣が永びく時は慢性胃カタル同様  
精神に影響を及ぼして不快になつた  
事もある、腹脹脹となり、多く夢を見る  
なども来る。一體此病氣があると  
やはりは病氣が永びく性質を持つてゐる  
肩に光澤がなくなる、顏色がはつき  
りしなくなる、下痢が續けば段々  
弱する。

▲療法 此慢性症の療法は急性症  
と違つて非常に六ヶ敷い、醫者自身  
でも閉口する事が度々である、つま  
りは病氣が永びく性質を持つてゐる  
爲めに腸管内に解剖的變化が多いの  
で、症狀がいろ／＼になつて來る爲  
衛生法に注意すると同時に、食物の  
量を減らす事である、此病氣の性質として突然  
上にも特に氣を附けて、尙ほに病氣  
に消化の良い物を食へなご、普通に  
が無いか、身體が虛弱で、ないかが  
いわれる時は月並である却て或る場合  
省みて根本的に治療して行く事を  
合に弊害がある、され故茲には一定  
した治療法を述べぬ（衛生顧問欄を  
利用せられよ）

衛生講話

## 胃腸病の話

意、療法、此慢性症の療法は急性と違つて非常に六ヶ敷い、醫者自身でも閉口する事が度々である。つまりは病氣が永び性質を持つてゐる爲めに腸管内に解剖的變化が多いので、症狀がいろ／＼になつて来るためである、此病氣の性質として突然起るものでない、で起るまでには相當の間がある、され故に平生一般の衛生法に注意すると同時に、食物の上にも特に氣を附けて、尙ほに病氣が無いか、身體が虛弱でないかを省みて根本的に治療して行く事を掛けねばならぬ、此病氣に罹つた時に消化の良い物を食へなご、普通にいわれるのは月並である却て或る場合に弊害がある、され故茲にば一定した治療法を述べぬ（衛生顧問欄ねい利用せられよ）

恭賀新年

恭賀新年正月旦元北島研三藤田克己  
福井保里大野長一野村秀吉  
石川留四郎馬場阿部正七島永島

## 伯刺西爾拓植會社

七

# 刺西爾拓植會社 イグアペ植民地 大正七年正月元旦 年賀新年



Neste momento de angustia por que estão passando quasi todos os paizes do mundo e a sorte de uma nação depende exclusivamente em acção energica e criteriosa de seus governadores, e o Brazil soube defender o seu direito com a maneira tão brillante e honrosa que mereceu a estima e a admiracão univeroso.

Minas Geraes, berço das idéas liberaes e que tem a fortuna de possuir filhos como: Wenceslau Braz, Delfim Moreira, Francisco Salles, Arthur Bernardes,...e muitos outros, occupa sempre a primazia entre os demais Estados do Brazil, imposta pelas actos de energia e honradez desses seus filhos, cabendo ao primeiro d'estes mineiros a gloria invejavel da maior conquista moral que acaba de obter na politica universal.

O Exmo. Sr. Dr. Delfim Moreira da Costa Ribeiro, cuja photographia honra hoje a primeira columna do nosso jornal, é o homem que está designado para representar um papel preponderante e saliente na politica brasileira, durante o proximo quatrienio, e o povo brasileiro confia tranquilmente na sua acção e, particularmente, os mineiros que vêem na figura de S. Exa, o verdadeiro democrata e grande factor da "Ordem e Progresso".

Nós, japooneses, que temos a felicidade de residir neste abençoado solo brasileiro, rendemos a esse grande estadista a modesta homenagem, aliás, justa, pois, foi S. Exa, quem permitiu a introducção, nos campos da laboura de Minas Geraes, de alguns nossos irmãos que honradamente desejam concorrer para o progresso desse grande Estado.

A S. Exa., pois, enviamos as nossas saudações cordiaes.

Correspondencia de Minas.

Motto Ohno.

在ミナス州大野基尚氏寄稿	○品種適地試驗		○耕作法	○耕作期	○成績
	丘陵地	平地			
	マツトコソ	マツトコソ	反歩モミ收量	一九一七年四月	二、三、三〇
	マツトコソ	マツトコソ	同同	同同	三、八〇
	マツトコソ	マツトコソ	同同	三、四二	

BELLO HORIZONTE 23 DE 1061 DE 1917

左は特に本社の爲めに致されたる同氏の筆跡にして新紙の出現と共に益々日伯兩國の友交深かるべきを意せられしものなり。茲に吾人は厚く同氏に感謝す。



ミナスジエラエス州現大統領

デルフィン・モレーラ氏

### 桂試驗農場米作成績

自一九一六年八月一年間  
至一九一七年七月一年間

擔當技師 橋田 正男

耕作法 伐採後能く取片付をなし  
たる土地に十一月中旬直播し二  
回の除草を行ふ

成績

耕作法 伐採後能く取片付をなし  
たる土地に十一月中旬直播し二  
回の除草

# 白 金 西 南 日 報

# 新年號附錄

竹の園生の御榮え

御 製

巖 上 松

ふきさはぐ嵐の山のいはね松  
うごかぬ千代のいろが静けさ  
雪 中 竹

ふりつもるまがきの竹のしら雪に  
世の寒けさを思ひこうやれ  
松 上 鶴

山松のこすゑにすたつ雛鶴も  
親にならひて千代よばふなり  
田 家 煙

かざりなき山田の里の賑ひも  
たてるけぶりに知られけるかな  
かざりなき山田の里の賑ひも

花の心がをしかりける  
雪 中 松

降積るかしらの雪があはれるな  
たいきの松はひとならねども  
たいきの松はひとならねども

御 歌

社 頭 松

まつ風も神の心になびきつゝ  
枝をならさぬ御代まもるらむ

巖 上 松

動きなく榮ゆる御代を巖の上の  
松にたゞへたれかあふがむ

雪 中 竹

かざりなき君が千歳も籠るらむ  
竹のはやまにふれるはつ雪

雪 中 松

かをとめてとふ人もなき梅園を  
夜ごとに照らす月のかげかな

雪 中 松

いとぞくふりつむ雪を千代ふべき  
松はものとも思はざるらむ

ても心にかかるは九重の雲深きあた  
りの御ことなり、

今上陛下の御日常 陸下御日常の一度も在さず承はるにつけても知  
御事は我等臣民の固より伺ひ奉るべ  
きことには非ざるも洩れ承る處を拜

元帥の御服を召され午前  
十時に御學問所に出席され  
ろばされ萬機を擔はし大臣  
臣百官の奏上する國務を御  
聞召し一々御裁断あらわ  
は正午頃皇后陛下と御同  
席にて御洋食を召させらる  
御飲食後少量の生葡萄を  
あらせられて午後五時近  
く御退出の上御湯をひか  
せたまふ。御夕餐は六時  
又は七時頃皇后陛下と其  
に召せらる御夕餐の御  
料理は日本御料理の御定  
なりと承はる

御書見と御就床 御夕餐

後は内外の出来事及び御  
籍に就き皇后陛下と御書  
らひあり。此時名利獻の御  
の書籍を御覽あらせら  
れ凡て十時頃御寝に入ら  
給ふと云ふ尙は御寝にま  
らせられ給ふ折には日本  
服に御召換させらるゝ事  
常例とさせ給ふと承は  
又昨夏日光御避暑中の御  
事なりとて宮内高官の御  
話と拜承するに

今上陛下には年と共に  
玉體御健かに渡らせる  
御跋徳以来六星を経させ給へる  
今までかりりめの御風氣たに只の御  
規律正しき御生活の然らしむるこ  
うと拜察奉り有難き極みなるが夜の御  
御寝朝の起床、朝の御運動、午後

年 新 換 交 刺 名 賀

在サンバウロ 帝國總領事館	松村貞雄	荒井金太	宮崎信造	伯刺西爾 移民組合支部
藤崎商會	熊坂清四郎	青 年 會	鹿野久市郎	明穗梅剛吉
在東京	田口道造	飯朝後多忙に取紛れ音問を欠き奉謝候乍略儀以紙上新年の御祝詞申上度如此に候謹言	翁長助成	日冲
日本貿易株式會社支店 ブエノス、アイレス	豊島昌	聖市滯在 福島縣人會	高桑治平	サンバウロ市 リベロンブレト出張所
渡邊孝	小笠原尙衛	西原清東	野間常夫	鹿兒島縣人會一同
伯國日本人青年會幹事 福富繁昌	笠原憲次	愛輪同志會幹事 長谷川庄太郎	愛輪同志會幹事 中村末熊	木藤商會主 木藤磯右衛門
サンバウロ市 ハル市へ移轉	木藤義一	松竹梅醬油本鋪	大澤商店	時計師
矢部服洋店	長谷川末記	岡島一郎	愛媛縣井上春藏	齊藤義一
セントラル線 東京市	田實武二	富山縣太田吉太郎	横溝洋服洗濯所	サンバウロ市
セントラル線 村上虎次郎	田口實	佐賀縣西野嘉市	原田岡本龍太郎	鈴木政吉
パウリスタ線ボスケ耕地	田上虎次郎	熊本縣菊地郡	青木梅雄	藤安洋服店
セントラル線 大澤商店	大野基尚	「丸西」醬油本鋪	愛媛縣松山市	安田良一
ノロエステ線平野植民地 大野基尚	奥平貞文	佐賀縣西野嘉市	井上春藏	セントラル線
マトグロソ州アキダワナ 山城與昌	山城與昌	平野植民地	横溝洋服洗濯所	
マトグロソ州カシボグランデ 安田良一	安田良一	平野植民地	原田岡本龍太郎	
ミナス州ベロオリゾンテ 大野基尚	大野基尚	平野運平	横溝洋服洗濯所	
マトグロソ州アキダワナ 山城與昌	山城與昌	平野植民地	大野基尚	
スンバウロ市 大澤商店	大澤商店	平野植民地	奥平貞文	
木藤義一	木藤義一	平野植民地	大野基尚	
木藤磯右衛門	木藤磯右衛門	平野植民地	大野基尚	
木藤商會主	木藤商會主	平野植民地	大野基尚	
大澤商店	大澤商店	平野植民地	大野基尚	
時計師	時計師	平野植民地	大野基尚	
齊藤義一	齊藤義一	平野植民地	大野基尚	
藤安洋服店	藤安洋服店	平野植民地	大野基尚	
安田良一	安田良一	平野植民地	大野基尚	

拉丁亞米利加に第一  
十回の新年を迎へて

在伯國帝國代理公使

野田良治

明治三十一年に墨西哥在勤を命ぜられたのが予の拉丁亞米利加に足を踏みだ最初であつて、南米在勤は明治三十三年八月秘露國里馬府に着任した時に初まるのである。尤も爾來今日まで前後四回休暇を賜はつて歸朝し、明治三十六年の元旦は東京で四十一年は太平洋上で四十五年と大正六年とは東京で新年を迎へたのであるから、嚴格に言へば今年は拉丁亞米利加で迎ふる第十六回の新年であり、又拉丁亞米利加在勤の正味年數は十五年八ヶ月の内、南米在勤はサントトマ更に其の内伯刺西爾在勤が六年と九ヶ月餘りである。

過去二十年間に於ける世界の物質的進歩は實に振古未嘗有で、活動寫真無線電機、飛行機、潛航艇などの發明乃至完成は其の進歩の一端を代表するものである。

又この間に日本帝國は日露戰爭に勝利して、二十年前の拉丁亞米利加に於ける本邦人の勢力はドウであつたかと顧れば、墨西哥チヤバスに於ける日本植民地が最初から失敗し比較的の意志堅固なる移住者十數名が將に崩壊せんとする同植民地の基礎を辛うじて支へて居つたのみで、殊に南米には未だ秘露民もなければ伯國の移植民事業も始まらず日本商店も立つてゐる。日本人の勢力なるものは全然皆無であった。然るに今日はドウであるかと言へば、在留邦人の數は伯國に於ける二万人

光陰天の如く日月流水の如しで大正も年改まりて茲に七年となり予の拉丁亞米利加在勤も既に第二十一年目となつた。

明治三十一年に墨西哥在勤を命ぜられたのが予の拉丁亞米利加に足を踏みだ最初であつて、南米在勤は明治

三十三年八月秘露國里馬府に着任した時に初まるのである。

尤も爾來今日まで前後四回休暇を賜はつて歸朝し、明治三十六年の元旦は東京で四十一年は太平洋上で四十五年と大正六年とは東京で新年を迎へたのであるから、嚴格に言へば今年は拉丁亞米利加で迎ふる第十六回の新年であり、又拉丁亞米利加在勤の正味年數は十五年八ヶ月の内、南米在勤はサントトマ更に其の内伯刺西爾在勤が六年と九ヶ月餘りである。

過去二十年間に於ける世界の物質的進歩は實に振古未嘗有で、活動寫真無線電機、飛行機、潛航艇などの發明乃至完成は其の進歩の一端を代表するものである。

又この間に日本帝國は日露戰爭に勝利して、二十年前の拉丁亞米利加に於ける本邦人の勢力はドウであつたかと顧れば、墨西哥チヤバスに於ける日本植民地が最初から失敗し比較的の意志堅固なる移住者十數名が將に崩壊せんとする同植民地の基礎を辛うじて支へて居つたのみで、殊に南米には未だ秘露民もなければ伯國の移植民事業も始まらず日本商店も立つてゐる。日本人の勢力なるものは全然皆無であった。然るに今日はドウであるかと言へば、在留邦人の數は伯國に於ける二万人

を筆頭として秘露に六七千人（アーノルト）共和国智利等に約二千人、南米全体を統計して殆ど三萬人近くに達し諸所に日本商店開かれ、東洋汽船會社の定期船は裏南米（太平洋岸）に往来し大阪商船會社は新に表南米（太西洋岸）と本邦との間に定期航路を開始するに至つたなど擧げ來り數々へ來つて予は實に欣喜雀躍を禁じ得ないの

である。

勿論南米に於ける本邦人の勢力は之を歐米人の勢力に較べて見れば今尙ほ極めて微弱なるものである。吾人は是を實に欣喜雀躍を禁じ得ないの



え。そ

底この世に容れられないだらうか

の夜半の二階に歌思ひ思ひ疲れ  
さうめるかな  
さうなりを立て、變壓器へんりゅうき我が  
の顔に夜を領し居り  
君の黒奴の顔には、ゑみの見ゆて  
のく明け渡る空

○小品文

謹賀新年

藤崎商會

支店所在地 リオ、デ、ジヤ子イロ  
サ ン パ ウ 口  
ペ ル ナ ン ブ ヨ

謹賀新年

大正七年一月元日

## 伯刺西爾移民組合

同リベロンブレト  
出張所

出張所

で喰ひ盡して其の運を開こうか。  
さなりと答へた彼は幾度も熱狂した  
群衆に投じて夜を徹した。魂身の精  
力を飛ぶ球に注ぎ、張り裂けん程に  
心臓を躍らして金網を握つたが、無  
残にも彼の歯は喰ひ盡せる皿と共に  
悉くかけ落ちるのであつた。  
人を怨み、世を呪ふた後は一段と  
淋しい。其の寂寥を忘れんとして彼  
は憤怒し、反抗心を養つた。  
けれど或年の秋。リツシャの花陰  
に隠れて居た彼が悄然都會に現はれた時の姿は最早興奮し兼ねる程に衰へ疲れて居た。而かも彼は最後の勇氣を以て血を湧かし、紅塵の裡に猛烈な戀を企てたのである。ソレは貪て経験したやうな贅澤ならして臆病な戀ではなかつた。濁れる血を新たにせねばならぬとする本能の希びは一層此の戀をして華やかにしたが虚三分を未だに買ひろこねて居る彼は茲にも見苦しき失敗をとつた。まア何と云ふ不幸な男だらう。彼は到

漸くに心の傷の癒に去りて猛者の  
日に我か立ちかへる。  
やよ敏子なれを泣くにはありまにも  
多忙の人となりにけるかな。  
來し方をかへりみすれば險阻なる山  
にも似たる世路なりしかな。  
悲しみの野をぬけ出でゝ光明の巷に  
立てば薰風清し。

底この世に容れられないだらうか。  
然し時は來た。雲を排して春の日  
は輝いた。彼が嘗て夢に呪つた幾多  
の幻影が意外にも彼の同情者である  
と知つた時彼は急に涙もろい男となり  
終つた。其の涙の底に天國が見ゆ  
る。

「又た正月が來ました」と云つて淋  
しく微笑した彼女を見て彼はやるせ  
ない心地がした。うして彼は今暗い  
穴から抜け出で、ホット一息した後  
に起る様な淡い疲れを感じるのであ  
つた。

薰風清し

翁長助成

正直者は欺かれ易い。欺かれた所  
に黒い影がさす。正直は罪科の母で  
あるかも知れない。虚三分に正直七  
分、之を武装せる正直と云ふ。少な  
くとも欺かれぬ程度の正直でなけれ  
ば人の世は渡れない。

然るに彼の正直は不幸にして天國  
にのみ通用するものであつた。だか  
ら虚三分の正直にマンマと乗せられ  
て暗い谷底へ蹴落される迄気がつか  
なんだのだ。賣らんかな。買はんか  
な。彼の十年は正直を賣り偽りと換  
へて明い世界へ出やうとした苦いも  
がきであつた。其れをしも冷かな人  
は恐ろしい罪悪だと云ひやした。思  
ふんな機會は決して來ない。無念、絶  
望、何んと云ふ不運な男だらう。斯  
く悲しくツヅやいた聲の奥から惡魔  
が鳴いた。まゝよ、毒を食はゞ皿ま  
前には輝いて見ゆ。

旅になやむわが身なりせば初日影め  
ゆき／＼て春知らぬてふ國に入りあ  
りしながらにとはに生きてん  
人は皆同じ心になりぬらしいつくし  
みなき世も春の初日わ  
常夏の國の初日は雲に深くいかづち  
の音もどろきにけり  
常夏の國の春ころすべなけれ操にし  
たき花しなければ

折にふれて

草の女

二坪の吾庭の面も春立ちて花はころ  
びぬ鳥も來鳴きぬ

何事か云ひつ笑へるいとし兒に針持  
ちし手がしはし止みたる

人の世をくり返してぞ母と呼ぶる吾  
れにも乙女時代のありき  
送り來し友の寫眞ふけしよと思へば  
吾れも母の身なりき  
何か云ふ様にぞ見ゆる唇の亡き父に  
似し弟の寫眞

○小品文

# そぞろ歩き

## 咲 代

私はいつもの丘へと出た。  
青い花、赤い花が南國の夕日を浴びて咲いて居た。何處からともなく涼しい風が吹く。其の風につれてなにざ合ふ草むらに愛らしい鶏雛の姿が見れつした。丘の下には緑に包まれた小さな家が二三軒白く光つてゐる。弓なりに曲った細い野道を私は下つて行く。今迄余念なく草を食むで居た小馬が急に驚いたと云ふ風に三三間走つたが又頭を草の中に隠した。

私はごある川岸へ出た。そして暮れ行く水の面をボンヤリと眺めて居る時々小魚が淋しい音を立て、白い泡を作る。

丘を通ふ電車が疲れた響を残して街の方へと消えて行つた。私はあの騒々しい都會の音をうれしく思つた。昔が戀しい。川を渡つて夕闇が迫る冷たい風が頬をなめた。

私は悲しく川岸に立つて居るのであつた。

然し私は四年も前に死んだ妻を今更思ひ出して悲哀の中に甘き追憶を味ふ。この時々小魚が淋しい音を立て、白い泡を作る。

私は四年も前に死んだ妻を今更思ひ出して悲哀の中に甘き追憶を味ふ。この時々小魚が淋しい音を立て、白い泡を作る。

孤獨の悲しみに泣かむより雙棲の樂なら、どうにかして新しい妻を迎へよう。夫婦は互に理解し合はなくてはならない。これが私の……と云つて私の

バウロ市から二十分、サントスへ行く鐵道沿線の小さな町である。此町に唯一人の日本人たる私は、六日の間日本語が話せない。これが可なり私をして淋しい心細い思ひをさせるが、それにも増してシンメーと「御歸りなさい」といふ妻もなければ、「今戻つたか」と云つて呉れる父母もない、やる瀬ない思ひを抱いて私は寝臺の上に大の字になつて、天井を見つめて吐息つく事が幾度か知れない。

機械の音を聞き、翁長助成はしがき私の詰所は工場の中央にある二メートルに四メートル、三方ガラス張の二階で、階下には百馬力のモートルが二臺据られて居る。其モートルに依つて白熱された古鐵を延ばす機械が廻轉される。私はモートルが起す心地よい位な微かな震動に身を搖られながら、可なり大きな齒車の軋る音を聞きつゝ明るい電燈のもとに獨りボツチニンと腰をかけて居る。

何か不時の出来事のない限り一時間一遍位ズット工場を見廻るのが私の役目である。尤も此一時間一回は技師長の命令ではなく、私が勝手に決めるのだ。従つて間があつて餘る私は退窟凌ぎに、思ひ浮ぶ儘を手帳に書きつける。

一、出雲の神様私が住んでゐるサンカイタノはサン

ト出雲の神様の代理となつて教育ある奮闘する婦人を募集し、船賃手數料特別大割引で連れて来ては呉れまいか。

例外は別として教育あるものでなければ教育あるものを解する事は余程困難な事で私は思つてゐる。サンバウロ市には隨分奇麗な娘がゐる。然し其多くは伯國のハイカラ娘の皮相のみを眞似て、虚榮の夢にあふれ歩く連中だとの事だ。かう云ふのは向ふでも來ては呉れまいがこちらでも真ツ平だ。

在伯邦人の智識階級に屬する人々の中に多くの獨身者があるのは、私どもがれ歩く連中だとの事だ。かう云ふのは向ふでも來ては呉れまいがこちらでも真ツ平だ。

同じ考へで不得已淋しい生活をしてゐるのではなからうか。

## カンナの栽培

バライゾ耕地

大亂の影響で總ての物價  
た其の御多分に洩れずビン

●世界大戦の影響で、終りまで物価が騰貴した其の御多分に洩れず、ビンガも驚く可き價の上り方然しビンガが此頃の様に一リットル九百レイスの市價を保たないで戦前の五百レイスに下落したとしても當國に於けるカンナ栽培は確に利益莫大なるものとして諸君に御照會する事が出来る。

●此のカンナは熱帶地の植物で暑氣が烈しく雨期に入つては雨量が充分で乾燥期に入つては雨の稀な地方が別けて生長茂盛が迅速で且つ糖分を多量に含む優良なるものが得られる。其れは湿地に播付けたるカンナは發芽するに際して害虫の被害多くして腐敗し易く且つ生長後糖分が希薄で濃度計で試験すると六度乃至七度に過ぎない優良なるカンナの糖分は普通十度乃至十二度のものである。

●播種の時期は一月より三月までを好時期とする然して種は一年生のカンナを選び三節宛を一本として小切り發芽(若芽)の覆はれたるものは奇麗に之れを取り去る事が必要である。斯くて得たる種はアラーダにて堀られたる廣さ七寸深さ八寸位の直線の溝の中に運ばれ芽を左右に一つの先端と他の後端とが接觸連續するやうに播付けるのである最初土覆は一二寸位こしルアールアの距離は四寸を程度とする。

●かくして播付たるカンナは約一ヶ月を経て發芽す。其れより二ヶ月を経過すれば約七八寸に生長する此の時に第一回の除草を行ひつゝ溝の埋まるまでカンナの根元に土壤をかけらる。第二回の除草は九十月頃に行ひ根元の小高くなる程に土壤を寄せる此の時期に至れば最早やカンナは三四尺の高さとなり四尺のルアは日影を見ず雑草の生長する餘地がない。

この事件の結果吾々同縣人の顔を汚したといふ如きは小さな問題である。これがために耕主に口實を與へて在耕地同胞の爲に好都合に解決せんとした官憲の努力を水泡に歸せしめ在耕地者に多大の迷惑を掛け同胞全體の名譽を毀損し果ては自分も監獄に落まなければならぬ様な事になつた。七年アラジルでさへ獨逸戦争をする世の中になつて此國に於ける吾々の馬が飛び出して遂にこんな重大な事件を惹起した、馬だからこそ決して馬鹿にはならぬ。大正も既に七年アラジルでさへ獨逸戦争をする世の中になつて此國に於ける吾々の馬が飛び出して遂にこんな重大な事件を惹起した、馬だからこそ決して馬鹿にはならぬ。大正も既に

## 地方會員諸君

## 余の新發明の算盤

しんしゅん  
書院  
福川爲然



## ◎サンパウロ市に於ける工業

サンパウロ瓦斯會社

野間常夫

ブラジルが農業國であるの故を以て他の事業の見込みが無いと云ふものが、私は夫に同意することは出來ない。私は私の立場が工業界にあり、私は多少の考慮を此方面に費して見たい。

鐵がなく石炭に乏しく其上勞銀不廉のブラジルは他國を顧客とする輸出工业國となることは不可能である。然し農業も夫自身で獨立して發達することの出來ないのを前提として考ふる時は、大農業國たるブラジルには、之に相當する丈夫の工業も必要である。此必要に迫らるゝ結果が其自身の發達ともなり盛大ともなるのである、想ふにブラジルの農業は目下の處サンパウロ州が中心で、從て工業もサンパウロを中心とする。運命を持つて居るが工業は農業と異て其發達は都市に集注されるのが便利で、又都市其ものゝ生命となるのであるからブラジルに於ける工業は、先づサンパウロ市が中心となるのである、想ふにブラジルの農業は建設期に入る迄に多少の年月と努力が必要であるが、工業は直ちに營業期に入ることが出来る。然らば資本は如何と云ふに、之は前にも云ふた通り私がここで最も有望であると云ふ工業は、輸出工業又は製造工業でないから、其等の様に資本の大小から来る關係で生産費を過大にするとか、營業の難易を増減することが比較的小ない。即ち小資本で經營するものに都合の好い情況下にある。